

## 工事完了までの水防活動

堤防のかさ上げが完成するまでには、まだまだ時間が必要です。昨年の台風第19号では氾濫危険水位には達しませんでした。同じ様な台風はいつ来てもおかしくありません。

そのため、葛飾区では今年7月に葛飾区合同水防訓練を実施し、荒川橋梁周辺の堤防切り欠き部に大型土のうを、上流部に22個、下流部に13個設置することで周辺堤防と同じ高さを確保しました。線路内には、あらかじめ土のうを積んでおくことが出来ないため、葛飾区と足立区の連名で、京成本線荒川橋梁における水防活動手順書を作成し備えています。

また、9月30日に、葛飾区長は足立区長と連名で、荒川下流河川事務所長へ京成本線荒川橋梁付近の堤防切り欠き部における対策及び京成電鉄軌道内の水防活動の時間を短縮できる対策として、パラペット(周辺堤防より低い箇所に設置するコンクリート製の擁壁)等の構造物設置とともに、さらなる区との連携や地域の水防活動の取組みへの支援に

引続き協力するよう要望しました。その後、11月17日には京成本線荒川橋梁に係る事業調整協議会が開催され、荒川下流河川事務所から、要望していたパラペットの施工について説明がありました。(詳しくは荒川下流河川事務所Webサイト(<https://www.ktr.mlit.go.jp/arage/>)をご覧ください)。

## 終わりに

今年8月28日には、荒川沿川の墨田区、江東区、足立区、葛飾区及び江戸川区の区長が連名で「京成本線荒川橋梁架替事業推進の要望書」を赤羽一嘉国土交通大臣に提出し、橋梁架替に伴う堤防強化の早期実現を要請しました。

台風第19号をきっかけに京成本線荒川橋梁架替事業への関心は一気に高まっており、工事が早期に完了して安全になることを期待しています。

地域住民の団体である堀切地区まちづくり推進協議会は、これまでの積み重ねを基盤に関係機関と協力して取り組んでいきます。



葛飾区合同水防訓練で設置された大型土のう(令和2年7月)

出典:国土交通省 関東地方整備局  
「荒川下流 特定構造物改築事業(京成本線荒川橋梁架替)」  
令和2年7月17日 3ページ



# 堀切地区 まちづくりニュース

第36号【令和2年11月】



堀切地区の皆さんに配布しています 【編集・発行】堀切地区まちづくり推進協議会 事務局

## 特集 京成本線荒川橋梁架替事業 荒川下流河川事務所を取材してきました!!

昨年10月に到来した令和元年東日本台風(台風第19号)は記録的な大雨で、首都圏の各地で被害が発生しました。葛飾区でも避難勧告が発令され、初めて避難所へ行かれた方、自宅で怖い体験をされた方も多かったのではないのでしょうか。

この時は、堀切地区では高潮の影響も受けて早い段階で水位が上昇し、京成本線荒川橋梁の堤防が低く越水の心配もありましたが、桁下1.2m程の所までで水位が収まり、台風通過とともに潮位も下がった為、氾濫等の水害の危険は解消しました。

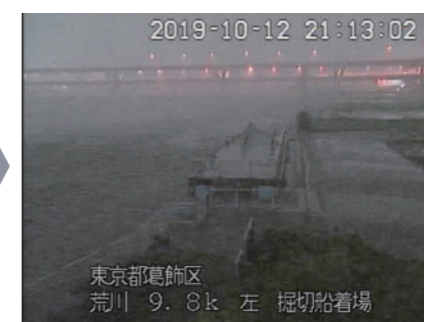
しかし、堀切地区も洪水の危険があることが再認識されたことを踏まえ、堀切地区まちづくり推進協議会では、ネックとなっている京成本線荒川橋梁架替事業の情報を得るために、10月27日に国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所を訪問し、副所長さんら職員の方々からお話を伺いました。

橋梁架替工事は令和4年度に着手することが分かりましたのでお知らせします。



当日の様子

## 令和元年度の台風第19号時の状況とは?



【国土交通省関東地方整備局Webサイトの堀切緊急用船着場ライブカメラ映像から堀切地区まちづくり推進協議会がスクリーンショットした写真。雨が止んだ後に、水位が上がったことがわかる。左:台風通過前・中央:台風通過時・右:通過後増水時の状況】

## 戦後最大の降水量を記録

台風第19号は、荒川流域で戦後最大の流域平均雨量を観測しました。



雨量は最大でも、水位の上昇は戦後3番目でした。これまで行ってきた荒川の治水整備の効果が現れたのかも?

■主要洪水(戦後)の流域平均雨量(笹目橋上流域)

	洪水	雨水
1	令和元年東日本台風	446mm/3日間
2	昭和22年9月カスリーン台風	436mm/3日間
3	平成11年8月熱帯低気圧	401mm/3日間

■主要洪水(戦後)の最高水位(岩淵水門(上)水位観測所)

	洪水	水位
1	昭和22年9月カスリーン台風	A.P.+8.60m
2	昭和33年9月狩野川台風	A.P.+7.48m
3	令和元年東日本台風	A.P.+7.17m

出典:国土交通省 関東地方整備局 荒川下流河川事務所 「荒川下流 2020 令和2年度事業概要」6ページ

## 荒川と高潮の関係

高潮とは台風(低気圧)の影響で海面が上昇する現象で、河川の水位も上昇します。堀切地区は荒川河口から約10kmであるため、高潮の影響を受けたと考えられます。

## 台風通過後の復旧整備の実施

河川の水が引いた後、河川敷には上流から流れてきた大量のゴミや土砂が残り、元の河川敷に戻す仕事を河川事務所や河川敷を占有している方々が実施しました。また、被災した場所では、補正予算により、現在復旧工事が行われています。

## 地域の話題

### 堀切の街キャラ「ほりきりん」が 第8回かわいい感性デザイン賞企画賞受賞!

本年9月9日に、日本感性工学会の第8回かわいい感性デザイン賞企画賞を「ほりきりん」が受賞しました。  
(<http://kawaii-award.org/>)

#### 【受賞理由】

展開が素晴らしい。それだけ受け入れられるキャラクターであろう。かわいさも。

賞状とあわせ、かわいい感性デザイン賞ロゴのバッジもいただきました。(右下参照)

「ほりきりん」は、堀切の街の活性化キャラクターです。かわいい感性デザイン賞は日本感性工学会の登録商標です。



堀切地区まちづくりニュース 【編集・発行】堀切地区まちづくり推進協議会 事務局

堀切地区のまちづくり情報については、区Webサイトでも公開中!

トップページ→くらしのガイド(まちづくり)→地域街づくり→橋梁架け替えをきっかけとした街づくり→堀切地区の街づくり



～堀切地区のまちづくりに関しては、下記連絡先にお問い合わせ下さい～

葛飾区 都市整備部 都市計画課(竹内、岡安)  
代表:03-3695-1111(内線2508) 直通:03-5654-8391 FAX:03-5698-1536

# 荒川下流河川事務所の職員さんにお聞きしました!



背景写真: 国土交通省 関東地方整備局 荒川下流河川事務所側の荒川周辺風景

**Q.** 荒川橋梁の辺りでは、どのくらい水位が上がっていたのですか?

**A.** 京成本線荒川橋梁において、水位観測は実施していません。京成本線荒川橋梁の約100m上流にある綾瀬水門(表)水位観測所の最高水位と京成本線荒川橋梁の桁下高を比べると、左岸側(葛飾区側)橋梁桁下まで約1.2mの所まで水が来ていました。

**Q.** 夜遅くに、荒川の上流にあるダムで緊急放流が実施されるか否かといった報道があり、どうなるのかと非常に不安に感じました。あの時は、どういう状況だったのですか?

**A.** 大雨時に上流の水が下流にそのまま流れて洪水が発生しない様、ダムで下流に流れる水の量を調整しますが、ダムの貯水量が限界に近づいた場合、ダムに上流から入ってくる水量と同じ水量をそのまま下流に流します。これを緊急放流と言い、下流への影響を出来る限り抑える為に、少しずつ流す水量を増やし、ダムに自然に流れ込んでくる水量と同程度になるよう調整していきます。ダムに貯めた水を一気に放流する訳ではありません。



**Q.** 台風第19号による、橋梁架替事業への影響は何かありましたか?

**A.** スケジュールや工事内容には、特に影響はなく、予定通りで進めています。一方で、地域の方からは、早く整備を行って欲しいという声が増え、引き続き早く進めていかなければならないという使命感がこれまで以上に高まっています。

左写真: 国土交通省 関東地方整備局 荒川下流河川事務所の職員の方々



右写真: 堀切地区まちづくり推進協議会員

## 令和4年度工事着手予定! 京成本線荒川橋梁架替事業の進捗について

### 「京成本線荒川橋梁架替事業」とは?

荒川の増水による被害を防ぐために、堤防かさ上げの支障となっている京成本線荒川橋梁を、堤防より高い位置へ架け替えて堤防を整備する事業です。

主に次のような工事が行われます。

現在の橋梁の上流側に新しい橋梁を整備すると共に、新橋梁から堀切菖蒲園駅及び京成関屋駅にかけて、従来の線路に接続する新たな線路を整備します。

また、電車の運行を新しい橋梁に切り替え、古い橋梁を撤去し堤防のかさ上げを行います。

空地の少ない住宅密集地域で、電車の運行を継続しながらの複雑な工事となるため、完成までには一定の年数がかかります。

京成本線は道路や東武線との立体交差部が多いため施工が難しいそうです。また、電車が運行していない夜間も含めて、昼夜で工事を行う必要があるそうです。

### 葛飾区側(堀切地区内)の工事イメージ



堀切四丁目の橋梁へのアプローチ部分では、新橋梁と従来の線路を接続するために、京成電鉄の所有地を有効に使いながら必要最小限の用地取得で新しい線路の工事が行われます。



周辺堤防の高さ

現在の橋梁の高さ

京成本線荒川橋梁の桁下は  
周辺堤防の高さから約3.7m低い

かさ上げた堤防

地盤沈下

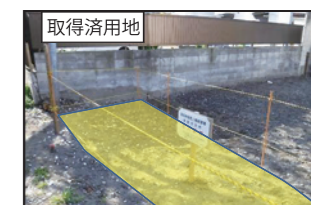
荒川

▲ かさ上げされた堤防の間を通る京成本線荒川橋梁

上図: 広報かつしか平成28年12月5日号より引用

平成16年の事業開始の発表から今年で17年になります。当推進協議会は、全体会への荒川下流河川事務所からの出席と事業進捗のご報告をお願いし、その内容を本ニュースでも記事にしてきました。

現在事業は着々と進行しており、令和4年度の工事着手に向け詳細設計と用地取得が進められ、堀切でも街中に少しずつ変化が出てきています。



取得済用地  
出典: 国土交通省 関東地方整備局  
「荒川下流特定構造物改築事業  
(京成本線荒川橋梁架替)」  
令和2年7月17日 5ページ

電車を運行させながらの線路変更となるため、一旦仮線へ線路を移動し、新線建設後に再移動するなど段階的に線路切り替えを行う複雑な工程となります。

下図出典: 国土交通省 関東地方整備局「荒川下流特定構造物改築事業(京成本線荒川橋梁架替)」令和2年7月17日 6ページ

